

授業編



授業の中で次の4点を効果的に取り入れましょう。

	活 動	内 容
①	学習目標を提示する	学習目標（めあて、ねらい）を明確に示します。
②	自分で考える活動	どの子も課題に向き合い、じっくり考える時間を確保します。
③	交流する活動	自分の考えをペア・グループ・全体で、発表したり話し合ったりする時間を確保します。
④	振り返る活動	わかったこと、さらなる疑問、もっと学習したいことなどを自分の言葉でまとめたり、学んだことを使って練習問題等を行ったりします。



家庭学習編



自分で学習や生活を改善する力を継続的に育てることが重要です。家庭学習は、宿題や自主学習などを含め、以下の時間を目標に行える習慣を家庭と連携して育みましょう。

		小学校					中学校			
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
目標時間(分)	20分程度		30～40分			50分～60分		90分～120分		



実践のヒント

① 学習目標を提示する

めあては単元名や教材名ではなく、子どもが「この1時間で何をするか」がはっきりとわかる表現で示しましょう。

子どもが学習課題をとらえやすくするために、ICT・具体物などを活用しましょう。

子どもに問題意識をもたせた後で、めあてを提示する方法もあります。

② 自分で考える活動

自分の考えを言葉、絵、図、操作などでまとめさせましょう。

一定の時間課題に向き合わせた後、困っている子どもには、何に困っているのかを聞いたり、ヒントや具体物などで個に応じた支援をしたりしましょう。必ずしも全員に解決させる必要は無く、次の交流活動での友達の説明などによって理解できる余地を残してもよいでしょう。

机間指導をしながら、個々の考えを把握するとともに、その後の展開を構想しましょう。

③ 交流する活動

多様な考えの交流、対立する考えの交流、互いの学びの確認のための交流など、ねらいに応じて使い分けます。

必要に応じて、ICTやホワイトボードなどを活用し、考えの見える化をしましょう。

子どもに、どのようなことを交流してほしいのか、具体の姿を事前にイメージしましょう。

④ 振り返る活動

何を学習したか、どのように学習したかなどについて振り返らせるとよいでしょう。

学習した知識・技能をより確かなものにするために、練習問題を行うなどの他に、作文、演奏、運動による表現なども考えられます。

自分や友だちの学びを振り返り、次の授業や家庭学習などに生かそうとする子どもの姿を積極的に褒めていきましょう。

家庭学習

家庭学習では、宿題、自主学習や読書などを含め目標時間になるよう指導しましょう。開始時刻を決めるなど、自主的に行う習慣が身に付くよう家庭と連携し指導しましょう。自主学習のよい例はどんどん紹介しましょう。「継続は力なり」です。一人一人を認めながら根気強く指導しましょう。

授業のユニバーサルデザイン化

UD

1時間の学習の流れを明示することにより、見通しをもち、落ち着いて学習できる子どももいます。

活動時間を明示すると共に、タイマーなどを活用し時間の経過も見える化しましょう。

- ①3S（ショート、シンプル、ストレート）の意識。指示は一つずつ。説明は短くシンプルに。わかりやすい表現で。
- ②具体物やICTを積極的に取り入れ、イメージしやすい環境を作りましょう。
- ③スモールステップ化。小さな階段をいくつも作り、「できる・できるのくり返し」で習得させましょう。

宇陀市教育委員会では、平成28年度、29年度と「学びの創造UDAプラン」の中で、「授業のユニバーサルデザイン化、主体的・対話的な学び、家庭学習の充実」という目標にむけて取り組んで来ました。それらUDAプランの成果が、宇陀市のどの教室でも行われる「スタンダード」となるよう内容を絞り込み整理しました。毎日の授業で実践し、指導力の向上を図るとともに子どもに力をつけましょう。